

American Rock Lyric Landscape

—アメリカン・ロック・リリック・ランドスケープ—

ロックの歌詞から見えてくるアメリカの風景

文=ジョージ・カックル

イラストレーション=花井祐介

第20回

ランディー・ニューマン
「レッドネックス」
コインの両面のような
南部と北部を巧みに風刺



Randy Newman
"Good Old Boys"
Warner Bros. OMS2193 [1974]
©Rhino/R2 73839

テリジェントな風刺と皮肉に溢れた歌詞を。まずはアルバムタイトルの始まりよう。グッド・オールド・ボーイズ。にはふたつ意味があると云っていいだろう。ひとつは軽蔑的で、仲のいい男たちが取り仕切る社会のこと。それをグッド・オールド・ボーイズ・ネットワークという。もう一つの意味は、田舎に住んでいる、南部の人にとってはリッチで礼儀正しい人のことだ。曲名はこの両方を指している。

Last night I saw Lester Maddox on a TV show
With some smart ass New York Jew
And the Jew laughed at Lester Maddox
And the audience laughed at Lester Maddox too

ここでのランディーは、プライドを持った南部の人の目線で歌っている。この詩は最初に、詩を書いた理由からスタートしている。ある日テレビ番組(「ディック・キャヴェット・ショウ」)を見ていたら、ゲストにジョージア州の州知事になったばかりのレスター・マドックスが出てきたとい

この曲を初めて聞いたのは、昼間は大学へ通い夜は新宿2丁目のロック・バーへ開拓地Vで仕事していた頃だった。ある日、米軍キャンプに住む友達の家で聞かせてもらった。74年に出たアルバム「グッド・オールド・ボーイズ」の1曲目だ。
最初は信じられなかった。「nigger」という言葉を使っていたからね。「nigger」とは、黒人を悪く言う、普通なら口に出さないよ

うな言葉だから。その頃はまだランディーの皮肉ったユーモアがわからなくて、南部の人を否定する曲だと思っていた。それまでランディーは、俺にとつてスリー・ドッグ・ナイトの70年のヒット曲「ママ・トールド・ミー」を書いたソングライターという認識しかなかった。俺はこの歳で、今さらながら彼の言いたかったことがわかってきた気がする。そのスタイルであるイン

う。レスター・マドックスは選挙中に、以前は黒人差別をしていたことを暴露されたが、選挙には当選し、これからはクリンなイメージでいこうとしていた。そんな彼を司会者ディック・キャヴェットは皮肉り、レスターは怒ってスタジオから出て行ってしまった。しかもスタジオにいた観客もそれを笑って見ていた。そんな光景を見たランディーは、これではジョージア州に住む600万人の怒りを買うに値しないと感じた。なにしろレスターは州知事に当選したわけだからね。司会者ディック・キャヴェットはニューヨーク在住の紳士でインテリジェントなりベラル派だから、余計に反感を買った。

たのだろう。「smart ass」とは、生意気な人のことだ。ランディーは、この番組でレスターが失礼な扱いをされていることに対して敵意を示したのだ。

Well he may be a fool but he's our fool
If they think they're better than him they're wrong
So I went to the park and I took some paper along
And that's where I made this song

最初の1行をわかりやすくすると、こうだ。もしかしたら彼は馬鹿かもしれないけど、彼は俺たちの馬鹿だ。

この言葉はいろんなかたちで、アメリカでよく使われている。一番有名なのは39年に、当時、大統領だったフランクリン・D・ルーズヴェルトが、ドミニカ共和国の独裁者ラファエル・トリビージョのことを

Somoza may be a son of a bitch, but he is our son of a bitch。ソモサはサナバピッチだけど、彼は俺たちのサナバピッチだ、と言ったと伝えられている。本当かど

「けむたが」

ニカラグア

アナスタシオ・ソモサ・ガルシア

うかはわからないが、代々の大統領もこんな言い回しを使ったと言われている。ちなみに、ソモサはニカラグアの元大統領。son of a bitch は男性への蔑称で、ロクデナシ。といったような意味で使われる。
詩の内容に戻ろう。北部の人たちがレスターより優れていると思っているならそれは間違いだ、ランディーはそう思い、紙を持って公園に行き、この曲を作ったと歌っている。「paper along」という言葉があるが、これは紙を持っていくという意味だ。

We talk real funny down here
We drink too much and we laugh too loud
We're too dumb to make it in no Northern town
And we're keepin' the niggers down

南部の俺たちは変な話し方をする。「We talk real funny down here」の「funny」は話し方が変わっていること。「down」は南部のことを指している。アメリカには、南部には変な訛りがあって、頭が悪いというイメージがある。飲み過ぎて、笑うとき

は声が大き過ぎるといふイメージも。その後の行では、どうせ俺たちは北の街で成功するには馬鹿過ぎる、そして俺たちはニガアを抑え続けている、とも歌っている。

We got no-necked oilmen from Texas
And good ol' boys from Tennessee
And colleges men from LSU
Went in dumb
Come out dumb too
Hustlin' 'round Atlanta in their
alligator shoes
Gettin' drunk every weekend at the
barbecues
And they're keepin' the niggers down

ここからは、北部の人間の、南部の人たちに対する偏見の言葉を並べている。首がないテキサスのオイルマン(オイルマンとは石油の世界で生きている大きなプロレスラーみたいな人たちをいう)、そしてテネシーのグッド・オールド・ボーイズ、そしてLSUの大学生、彼らはバカで入って、バカのまま卒業する。
LSUはルイジアナ・ステイト・ユニヴ



アーシテイのことで、南部の有名な州立大学だが、いくらい大学の出身者でも北部の人は南部の人間はみんな間抜けだと思っ
ているんだ。彼らは南部のアトランタで
革の靴を履いて騒いでいる。罎の革靴を履
くなんて下品な人たちだという。週末はバ
ーベキューで酔っぱらっている。そして
南部の人たちはニガアを抑え続けていると。

chorus
We're rednecks, rednecks
And we don't know our ass from a
hole in the ground
We're rednecks, we're rednecks
And we're keeping the niggers down

(サビ) 俺たちはレッドネックだ、レッドネックだ。そして俺たちは地面にある穴とケツの穴の違いがわからない。これもよく使う言い回しだ。何もわからない人や、何も理解できない人のことをいう。仕事ができない人のことも指す。もともと「redneck」はロバのことだったが、今では英語でケツという意味で使う。
‘redneck’とは首が日焼けするブルー・

カラーの人たちを指すのと同時に、頭が固い保守的な人間のこととも指している。

Now your northern nigger's a Negro
You see he's got his dignity
Down here we're too ignorant to realize
That the North has set the nigger free

ここからランディーが、南部の話から北部の人のことに話を変えていく。北部では黒人をニガアとは呼ばない。ニグロだ。北部の黒人には尊敬がある。俺たち南部の人間は、北部がニガアを自由にしたこともわかっていないほどバカなんだ。

Yes he's free to be put in a cage
In Harlem in New York City
And he's free to be put in a cage on
the South-Side of Chicago
And the West-Side
And he's free to be put in a cage in
Hough in Cleveland
And he's free to be put in a cage in
East St. Louis
And he's free to be put in a cage in

Filmore in San Francisco
And he's free to be put in a cage in
Roxbury in Boston
They're gatherin' 'em up from miles
around
Keepin' the niggers down

ランディーの言葉が北部の人たちに対してきつくなっている。60年代には北部の街で人種差別の暴動が山ほどあった。北部の人たちは‘free to be put in a cage’つまり黒人たちは檻(黒人街)に入れられるほど自由を持っていると歌い、暴動があった北部の町の名前をたくさん並べている。暴動を忘れさせないように詩に入れていているんだ。黒人たちは檻に入れられる自由を持っている。ハーレムで、ニューヨーク・シ
ティーで、シガゴのサウスサイドで、ウェ
ストサイドも、クリヴランドのホウでも、
イーストセントルイスでも、サンフランシ
スコのフィルモアやボストンのロクスベリ
ーでも。‘miles around’つまり、そこら
中から集められている黒人たちを抑圧し続
けている。ほら、北部の人間も人種差別の
気持ちは持っているじゃないかと。

chorus
We're rednecks, rednecks
And we don't know our ass from a
hole in the ground
We're rednecks, we're rednecks
And we're keeping the niggers down

俺たちはレッドネック…。という前回のサビの繰り返し。
実はランディー・ニューマンはニューオー
ーリンズ生まれで、南部育ちだ。彼は北部
の人たちが南部に対していつも偉そうな態
度を取ることが気に入らなかつたというが、
この曲では、南部人も北部人も実は同じ。レ
ッドネック。で、共に黒人を虐げていると
いう、コインの両面のようなことを歌って
いるのだと思う。
ちなみに数年後の話だが、レスターがも
う一度同じテレビ番組に出た時に、冗談で
キャヴェットがスタジオを出て行くギャグ
をやったという後日談がある。また、かつ
てはこんな作ったランディーだが、今では
デイズニー映画『トイ・ストーリー』のテ
ーマ・ソングを書いている。同じ人とは思
えないね。